



第16号

2013年秋号

丹波市農業委員会だより



柏原町新井自治協議会主催 県民交流広場事業 神戸市灘区岩屋まちづくり協議会 子供会との交流事業風景

- ◆耕作放棄地調査を実施しました・・・・・・・・・・・・・・・・ P2
- ◆丹波市農業委員会総会・研修会・・・・・・・・・・・・・・・・ P2
- ◆農業委員担当集落一覧・・・・・・・・・・・・・・・・ P3
- ◆安心安全地産地消コーナー「ふるさとのかたち」・・ P4・P5・P6
- ◆建議報告（市の取り組み状況）・・・・・・・・・・・・・・・・ P7
- ◆農地相談日のお知らせ・・・・・・・・・・・・・・・・ P8
- ◆農業委員会委員選挙人名簿の登載申請について・・・・・・・・ P8

（今回から全体的に文字を大きくして読みやすくしました。）

耕作放棄地調査を実施しました

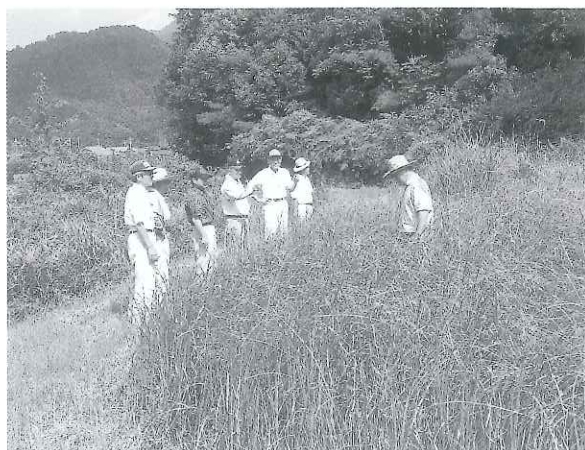
農業委員会では、農地の利用状況・転用許可後の状況を確認するとともに、耕作放棄地の調査や農地制度の周知徹底を図ることを目的に、毎年、耕作放棄地調査を実施しています。

今年は、八月四日から二九日にかけて、農業委員と事務局による調査班を編成し、市内全域を対象に耕作放棄地調査を実施しました。

耕作放棄地調査の結果、問題のある案件については、農業委員による直接の是正指導や文書指導を行います。

今後とも、農業委員会として関係機関と連携して無断転用等の早期発見・是正に努めるとともに関係者に農地法などの法令順守を徹底してまいりますので、皆様のご理解・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

また、農地について疑問な点やお困りの時には農業委員会にご相談いただきますようお願いいたします。



丹波市農業委員会総会・研修会を開催しました

七月一日、丹波市農業委員会の平成二十五年度第十回総会を開催し、農地部会・農政部会などの新役員を選出しました。

また、総会では「国益を守れないTPP交渉に反対を求める要請決議」も採択しました。この決議は、安倍総理のTPP交渉への参加表明で一挙に進み始めた貿易交渉に対して、農業関係者の不安の高まりを反映したもので、影響が大きい農産品の関税撤廃の除外、国民の食の安全・安心及び食料の安定生産の確保、交渉状況の説明責任などを内容とするものです。

また、午後からは、丹波農林振興事務所と丹波市役所農業振興課の職員を講師に迎え「人・農地プランと農業委員の役割」と題して研修会を開催しました。

研修会の前半では「人・農地プラン」のイメージや効果、実際の作成方法などの話を、後半で

はプランの作成状況や参画農家の意見などの身近な例を聞き、農業委員からは農地を守る立場から、集落や農家の実情を踏まえて、具体的な進め方、長所・短所など活発な意見交換を行いました。



あなたの地域の農業委員

地域	担当集落	名前	電話	地域	担当集落	名前	電話
柏原	南多田・南多田沖田・下町・東奥・屋敷・新町・古市場	うえやまただし 上山 貞	72-0487	春日	多利・野上野	みついあつお 三井 淳男	74-2296
	小南・室谷・本町・上中町・石田・北中・上小倉・下小倉・見長	こくらいちろう 古倉 一郎	72-0191		小多利・池尾	あかいまさる 赤井 勝	74-2916
	石戸・鴨野・東鴨野・下町沖田・拳田・大新屋	たなかゆたか 田中 豊	72-1536		多田・七日市	おぎのひさゆき 荻野 久幸	74-2468
	北山・田路・母坪	くらはしともくに 倉橋 友邦	72-0604		中山・松森・広瀬・栢野・野瀬	いとうしげみ 伊藤 重美	75-0503
氷上	上成松・黒田・犬岡	せしあきひで 勢志 昭英	82-1286		上三井庄・下三井庄・鹿場	なかがわわたる 中川 亘	75-1167
	西中・常楽・成松	やまもといくお 山本 育男	82-1990		東中・国領	たむらちようじろう 田村 長治郎	75-0307
	地頭・石生新町・領町・南町・北野・大崎	うめざわただし 梅澤 忠司	82-6354		棚原・柚津	あきやまさとこ 秋山 佐登子	75-0469
	横田・市辺・本郷・稲継	ひろせきはる 廣瀬 喜春	82-0493		朝日・園部・石才・歌道谷・坂・野山	おぎのまさゆき 荻野 正幸	74-1316
	下新庄・上新庄・大谷・長野・柿柴・柿柴東	あだちよしとか 足立 善孝	82-1658		天王・長見・新才・牛河内・山田	あだちしんいち 足立 眞一	74-0722
	清住・中・三方・中野・三原	ながくきじゅうろう 長久 喜重郎	82-1699	山南	青田・阿草・上滝・下滝・大河・池谷・長野・玉巻・奥野々・岡本・金屋・大谷	よこうちみちこ 横内 路子	77-1238
	稲畑・新郷・谷村	おおぎしょうぞう 大木 庄藏	82-0972		篠場・畑内・北太田・太田・谷川・山崎	たなかこうさく 田中 耕作	77-0264
	上油利・下油利・朝阪・小野・福田・佐野	つかぐちたお 塚口 忠男	82-2498		村森・井原・奥・野坂・南中・岩屋	わだけんじ 和田 憲治	77-1784
	絹山・香良・伊佐口・南油良・北油良・棧敷	うすいやするう 臼井 八洲郎	82-7258		若林・富田・小野尻・小畑・西谷・山本・五ヶ野・坂尻	たかすぎたけし 高杉 武志	76-0964
	日比宇・鴨内・小谷・沼・北御油・南御油	ほそみあきふみ 細見 昭文	82-7388		和田・金倉・小新屋・梶・前川	いしづかかずみ 石塚 和三	76-0667
	井中・北田井・南田井・西田井・田中・氷上	あだちまさとし 足立 正敏	82-2007		北和田・草部・応地	きしもとよしかず 岸本 好量	76-0610
青垣	佐治・小倉・森・市原・岩本・寺内・小和田・沢野・奥塩久・矢の内	たむらのりあき 田村 堯明	87-0767	市島	友政・安下・大森・新道具・水西・市ノ貝・高坂・岩倉	ひらたよしはる 平田 義春	86-0474
	東芦田・田井縄・栗住野・西芦田・口塩久	あだちよしろう 足立 芳朗	87-1562		石原・森・表・寺内・才田・中村・樽井	よでんただお 余田 忠男	86-0605
	桧倉・大稗・小稗・惣持・文室・大名草・稲土	あだちうめのり 足立 梅則	87-5730		徳尾・大杉・谷上・鴨阪・尾端・下鴨阪・矢代	おおしたまさお 大下 政夫	85-1819
	杉谷・平野・有口・岡見・中佐治・下地・上地	あだちのぶあき 足立 信昭	88-0188		今中・宮ノ下・段宿・十市・八日市	いのうえまさよし 井上 昌義	85-1178
	向・平地・徳畑・和田・遠阪・今出	あだちとよじ 足立 豊治	88-0011		梶原・上田・市島・上垣・上垣市島・久良部・北岡本	あらきよしのぶ 荒木 嘉信	85-1571
春日	上ヶ町・本町・新町・仲町・西町・杉ノ下・局の里・平松・稲塚・大野・古河	たきもとときよたか 瀧本 清隆	74-0556		南・喜多・端・岩戸・北奥・牧北・牧南・戸平	にしやまゆきお 西山 幸雄	85-1722
	横町・芝町・小山・下野村・木寺・惣山・奥野村・西野々	おぎのえいいち 荻野 栄一	74-1235		戸坂・白毫寺・与戸・乙河内・酒梨・勅使・東勅使	おぎのかずみ 荻野 一三	85-2141

ふるさとのかたち

安心安全・地産地消コーナー



青垣地域

あだちローズガーデン

足立 環

一九九四年十二月約五百坪（一六五〇㎡）のガラス温室（二号棟（写真1））を建設、翌年一九九五年

一月から切り花のバラ栽培を始めました。

二年後一九九七年に約四百坪（三三二〇㎡）の二号棟を建設、現在約九百坪（二九七〇㎡）で四月下旬～十二月頃まで切り花出荷しています。

栽培品種は、赤のローテローゼ、ピンクのアクエリア、そしてオリジナル品種のガールフレンド（写真2）など十種類 約二万二千株のバラを土耕栽培しています。出荷先は、主に大阪の花市場へ週二～三日出荷と、兄が経営している花屋に卸しています。また、プリザーブドフラワーの加工用として（株）大地農園にも出荷しています。



写真2

「アクア・アグリ」で品質向上

今年新たな取り組みとして二年前から山南町に工場がありまず松村アクア（株）さんと栽培試験をしています

た「アクア・アグリ」を使った栽培方法を約二〇〇坪（六六〇㎡）に導入しました。「アクア・アグリ養液栽培」（写真3）は、ブルーベリー栽培で実績があるもののバラでの栽培は初の試みで手探り状態ですが、三月に

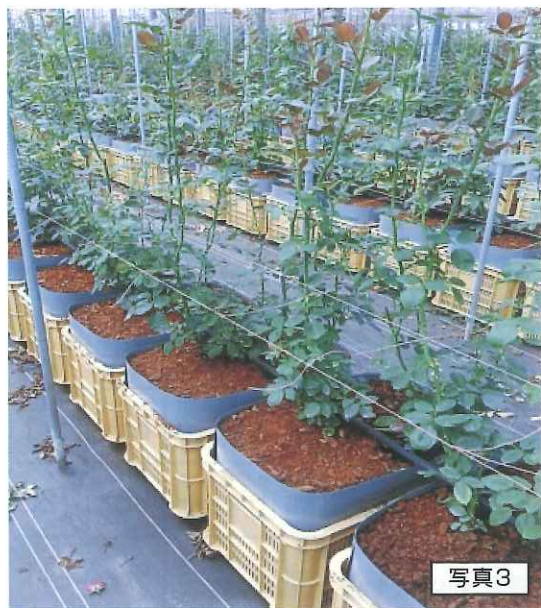


写真3

定植して八月下旬頃から少しずつ採花できています。今後の課題は、当初丹波でも青垣町は、以外に夏は涼しく良質のバラが切れていました。市場でも良い評価をして頂いていました。しかし、近年の異常気象で夏の高温多湿により様々な障害がはじめています。害虫、病害の多発、連作による障害など年々栽培環境が悪くなっているなか「アクア・アグリ養液栽培」の確立、バラ以外の作物の導入も視野にいれ気象条件にあつた栽培方法、栽培作物も検討していきたいです。

柏原地域

つくろう丹波黒豆

柏原町奉田 原田 勝弘

(トップツアー大阪支店勤務)

厄除け大祭が終わった二月の土曜日、織田家ゆかりの町柏原を社員に案内したところ予想以上の高評価、ならばもっと広く丹波の魅力を伝えることができないものかと想いを廻らしていたところに思いがけない「黒豆つくろうや」の言葉これを機に始まった黒豆プロジェクトをご紹介します。

総勢三十名の職場の有志が柏原町鴨野で約十五アールの黒豆栽培に挑み、土づくりから種まき・植え直し・土寄せ・支柱立てなど収穫までの農作業を体験することで栽培の楽しさや収穫の喜びを味わうとともに丹波の自然や風土、人との触れ合いによって丹波の魅力を知ってもらい丹波ファン拡大を目指しています。その上で旅行会社

の強みを生かして収穫ツアーなど観光客誘致を図るというものです。

■いい汗たっぷり

六月の作業は、土づくりと種まきを行いました。この時期は梅雨に入り農作業は天候に左右されます。突然の梅雨入りで予報は雨、しかし前日まで快晴で肥料いれと畝上げは予定通り行うことができました。当日は若手女子三名も参加、短パン軽装姿に一同啞然としましたが働きぶりによく、いい汗タツプリかきました。

種まきには六名が参加してくれました。事前に用意した種十粒の包みに参加出来なかった人のメッセージを書き入れてもらいました。その想いはブログに掲載されていますが「絶対負けられない種まきがそこにはある」と心強く、作業は昼過ぎても続行し、予定の肥料入れ・種撒き、そして防鳥テープ張りは無事完了しました。

■黒豆で丹波ファンを拡大

七月は植え直しと土寄せ、支柱立てを行いました。待望の発芽から一週間が過ぎ二〇センチほどに延びた苗は六割程度でしたが、植え直し作業も難なくこなし無事終了。次の土寄せと支柱たてには何と十八名が参加、日差しが強い暑い日でしたが総力の結集であれよあれよという間に作業は進み、午後はバーベキューで大いに盛り上がりました。八月の線張りで一連の作業は終了



となりました。その後の予防や水の管理はお世話役の地元農家さんにお任せとなります。

また当日の午後は年輪の里で看板作りや、ちーたんの館など観光施設へ足を運びました。多くの方の協力と期待でもって進んでいる黒豆プロジェクト、栽培同様に汗と愛情で大きく成長するように育んで参ります。



ふるさとのかたち

安心安全・地産地消コーナー



氷上地域

旬を大事にした野菜づくり

広瀬 直之

事業で農業を始めて十二年目になりました。

親の農業を継ぐにあたり、稲作(六・四ヘクタール)を中心に、小豆・黒豆(六反五畝)がメインで栽培していますが、それ以外に、旬を大事にした多品目の野菜作りがしたくて、今一番力をそそいでいます。

目に見えて結果はなかなか出ませんが、野菜本来の生命力を感じながら、自然の恵みに感謝しています。

この素晴らしい環境を大切に守っていかねばいけないと思います。それが出来る唯一の仕事が農業です。

これからも、農業を誠実に丁寧に取り組んでいきたいと思ひます。



丹波市農村女性組織連絡会で思いを共有

秋山 佐登子

JA女性会、生活研究グループ、兵庫県女性農業者、丹波市農業委員会の四組織の女性が集って、丹波市の農業、女性の生き方、知識の共有、他団体との交流等の活動を行っています。

主な活動として、秋の産業交流市での「大空の会」と合同での出店や、年に二回の研修があります。

今年は、七月に「夏野菜を使った料理教室」を開き、なす、ピーマン、トマト、きゅうりを主体にした献立を十一品披露しました。初めての料理法があり、「おいしかった」、「試したい」の感想が多くありました。

来年の二月頃に、「野菜作りノウハウの極意」を普及所の助言を得ながら学習する予定です。



同じ市内に住んでいながら、それぞれがバラバラの農業を中心とした活動をしていましたが、連絡会に集う事で、理解し、思いを共有でき、親しく感じられるようになって、この活動が丹波市の農業振興に少しでも貢献できる事を嬉しく思います。

丹波市農村女性組織

連絡会事務局

丹波農業改良普及センター内
☎〇七八五―七三一三八〇四

農業者の代表機関として市長と懇談

農業委員会では、目まぐるしく変化する農業情勢に対応し、農業者の要望を農業施策へ反映するため昨年10月4日に辻市長へ建議書を提出いたしました。

その回答を兼ねて5月23日に辻市長と懇談会を持ちました。

Q1

丹波市ブランド農産物の振興と米価対策

A1

栗の生産環境整備事業、栗再生モデル総合対策事業で丹波地域のブランド農産物として定着している丹波栗の生産、特別栽培米・夢たんばの生産を支援していきたい。また、農産物の生産加工に利用する機械、人件費などの支援を通して6次産業化を進める。



Q2

学校給食の地産地消推進について

A2

学校給食に地場農産物を使うために流通のための調整会議を設置し、効果的な供給体制を確立し、需要を高めたい。



Q3

有害鳥獣対策について

A3

防護柵の設置支援の継続、コンピューター制御の大型箱罠の購入、有害鳥獣担当専門員の配置、シカの収集分別処理施設の設置及び鹿肉の消費量を増やす施策を進めたい。



Q4

遊休農地の解消の推進について

A4

丹波市地域農業再生協議会と連携し、経済的な支援とあわせて耕作放棄地の解消を図りたい。



Q5

農業後継者、担い手支援の強化について

A5

人・農地プランの作成支援、既存の集落営農組織の経営の安定化に向けた支援、企業の農業参入の支援を図ることで担い手強化に取り組みたい。

Q6

TPP（環太平洋経済連携協定）交渉参加反対について

A6

農業は丹波市の基幹産業であり、国の責任において、新たな農業基盤や安心・安全を基本とする食料安全保障の確立を求めていくほか、流通の仕組みづくり考えていきたい。

建議の内容は、丹波市ホームページ（「市役所の情報」から「組織一覧」⇒「農業委員会」⇒「建議・意見書など」）でもご覧いただけます。

全国農業新聞

経営とくらしに役立つ情報をお届けします！
★毎週金曜日発行 ★購読料 1ヶ月600円

お申込みは丹波市農業委員会事務局(0795-74-1504)まで

—— 平成26年は農業委員改選の年です ——

農業委員会委員選挙人名簿の登載申請について

まもなく皆様のお手元に農会長(各自治会の役員)を通じて「丹波市農業委員会委員選挙人名簿登載申請書」が届けられます。これは、平成26年に行われる農業委員選挙の選挙資格を調査するもので、毎年1月1日現在で行われます。

有資格の条件は次のとおりです

- ① 丹波市内に住所を有する方。
- ② 年令が満20歳以上であること。田・畑併せて10アール(1反2歩)以上耕作している方及びその同居の親族又は配偶者で年間おおむね60日以上耕作に従事している方。

【農地相談日のお知らせ】 農地に関する相談をお受けします

地 域	12月	1月	2月	3月	会 場
柏原地域	12(木)	15(水)	13(木)	12(水)	柏原住民センター
氷上地域	11(水)	14(火)	12(水)	11(火)	氷上住民センター
青垣地域	11(水)	14(火)	12(水)	11(火)	青垣住民センター
春日地域	12(木)	15(水)	13(木)	12(水)	春日庁舎(第1委員会室・4階)
山南地域	10(火)	10(金)	10(月)	10(月)	山南支所(会議室・1階)
市島地域	10(火)	10(金)	10(月)	10(月)	市島農村環境改善センター

相談時間: 青垣地域は午後3:00から午後4:00まで、その他の地域は午後2:00から午後3:30まで
会 場: 相談会場は当日、案内板等でご確認下さい

農業経営と老後の生活をはっきりサポート!

農業者年金

詳しくは、JA
または
農業委員会へ

農業者の皆様も、メリットがたくさんある農業者年金に加入して安心で豊かな老後を迎えましょう。

① 65歳の農業者の方の平均余命は 男性22年(87歳)、女性27年(92歳)

老後はお金の心配をせずに暮らしたいものです。その間予測不可能な経済変動があり、思わぬケガや病気もあります。

② こんなにかかる老後生活 (現金支出で年額約280万円)

高齢農家世帯(世帯主が65歳以上の夫婦2人)の家計費は、現金支出で月額約24万円が必要となります。



③ 国民年金の支給額(年額158万円)

農業者の皆さんが加入している国民年金の支給額は、40年加入で月額約6万5千5百円、夫婦あわせて月額約13万1千円です。

◆ 農業者年金に加入すれば～農業者年金の支給額(年額)の試算 ◆

加入年齢	納付期間	運用利回り2.07%の場合		運用利回り3.00%の場合	
		男性	女性	男性	女性
20歳	40年	75.7万円	64.7万円	93.8万円	80.0万円
30歳	30年	51.5万円	44.1万円	60.8万円	52.0万円
40歳	20年	31.3万円	26.7万円	35.3万円	30.1万円
50歳	10年	14.3万円	12.2万円	15.4万円	13.2万円

(注) この試算は、通常加入で保険料月額2万円加入し、65歳までの運用利回りが2.07%及び3.00%、65歳以降の予定利率が1.15%となった場合の試算です。
運用利回り2.07%制度発足以降の11年度間の運用利回り平均です。
予定利率1.15%は、農林水産省告示(H25.4.1施行)により定められている率です。